

下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見  
(開設準備委員会での検討事項以外に関すること)

【本資料について】

下北地区統合校教育内容等情報交換会において、出された意見のうち、令和7年度に設置する開設準備委員会での検討事項以外に関する意見について掲載したもの。

令和7年2月14日

### <課程・学科等について>

- 地元の企業が求めている資格や技術などを考慮した上で、学科を検討してほしい。
- 定時制課程に進学する中学生が増えてきており、その中には、工業を学びたい中学生もいることから、統合校に工業科の定時制課程を設置することで、中学生のニーズに対応できる。
- 県内でも土木科が少ないことから、統合校に土木科を設置することで、他地区や県外からも生徒が入学し、下北地区の企業に就職するといったサイクルができる。
- 学びの選択肢を増やすためには、学科やコースの組み合わせが大切である。

### <遠隔授業について>

- 学校規模・地域格差を超えた多くの科目履修と単位取得が可能となるよう、遠隔授業の活用モデル校として指定してほしい。また、校舎建築に当たっては、遠隔授業を可能とする施設・設備の整備に努めてほしい。
- 学びの機会の確保や教職員の働き方改革などへの対応として、遠隔授業は非常に重要である。下北地区の地理的な状況を踏まえ、ICTの活用を推進してほしい。
- 遠隔授業を行うことで、それまで開設できなかった教科・科目を履修できるようになるため、導入してほしい。
- ICTを活用することで、下北地区に居ながら東京都内の高校生と同様に、最先端の授業を受けられるなど特色化を図ってほしい。

### <小・中学校との連携について>

- 小・中学校と高校の連携を通して、総合学科や工業科の特色を明確に中学生に伝えることができる。
- 地域が求めている人財を育成するために開設する教科・科目と中学生の進路選択との間にミスマッチがあるため、高校での学びを小・中学生に理解してもらう必要があり、小・中学校との連携等を強化していく必要がある。

### <単位認定について>

- 教育活動の充実のためには、学科・系列を超えた教科・科目の履修に加え、近隣の高校との連携による教科・科目の設定や、遠隔授業でも単位取得できる体制づくりが必要である。
- 他地区の職業教育を主とする専門学科を有する高校へ赴いての集中実習による単位・資格取得の実施が必要である。

### <情報発信について>

- 中学生が統合校に進学することにより、何を学ぶことができるのか、どのような進路選択ができるのかということを確認にし、理解できるような形にする必要がある。
- 地元の中学生にPRし、知ってもらい、興味を持ってもらう必要がある。
- 教育内容等の情報についても早く提供していく必要がある。
- 中学校1年生から進路指導をするため、ある程度の方向性でも構わないので、現在の中学1年生へ開校までのスケジュールなどを情報提供してほしい。
- 進路は中学校1年生から考えていくものであるため、統合校1期生となる現在の中学校1年生に対し、なるべく早く統合校について情報提供することで、他地区への流出等を防ぐ必要がある。
- 校舎の工事スケジュールやグラウンドが使用できないことへの対応など、ハード面を含めた統合校の情報について、早急に広く地域へ県教育委員会が説明する必要がある。
- こどもたち、保護者、地域へ現状を早急に伝えるとともに、県のHPでの情報提供だけでなく、むつ市で統合校に関する説明会を開催するなど、広く周知される方法を検討してほしい。

### <その他>

- 遠方からも通学する生徒が増えてくることも考えられるため、寮などの環境整備も必要である。
- 部活動を理由に高校を選択する生徒が多いため、活動する環境を整備する必要がある。
- 全てのこどもが同じような環境で部活動に取り組めるようにする必要があり、その環境によって、進路選択が左右されるようなことはあってはならない。